

備前市事務事業評価シート

(平成24年度事業)

事業の概要						
事業開始年度	平成17年度～		根拠法令・例規等	河川法		
総合計画	大項目	01	安全で快適に暮らせるまちづくり	問	担当課(室)	都市整備課
	中項目	03	災害に強いまちづくり		職・氏名	土木係長 大森 康晴
	小項目	01	河川改修・砂防施設整備		電話	0869-64-1835
事務事業名		02	河川改良事業	合先	このシート作成に要した時間	
					3.5 時間	

事業の目的		
対象(誰・何に対して)	河川沿線で生活を営む市民	
目的(何のために)	台風等の大雨時の堤防の決壊・氾濫による浸水被害を防ぐことにより、市民の生命・財産を守る。	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	河川の排水能力を向上させる。	

事業の実績			
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	河川改良事業	河川の排水能力を向上させるため、護岸を改良する。	

事業費等	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	千円	121,090	69,563	46,126
事業費	千円	0.78人	5,765	0.57人
必要人員	人	5,765	4,072	0.78人
事業費	千円	126,855	73,635	51,891
決算額	国庫支出金	44,926	26,881	15,826
	受益者負担金			
	繰入金			
	市債	12,800	10,300	11,700
	その他()			
一般財源	69,129	36,454	24,365	
受益者負担比率	%	-	-	-
結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標量	説明	河川改良延長1m当りの事業費		
対前年比	%	735	544	258
活動コスト	円	121,090,000	69,563,000	46,126,000
単位当たりコスト	円	164,748	127,779	178,714

事業の成果		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
河川改修率	成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
	目録値(A)	50	50	50	50	
	実績値(B)	83.4	74.8	67.4	到達目標値	
		達成率(B/A)	166.80%	149.60%	134.80%	毎年度
成果指標設定の考え方・式や説明						
工事施工延長は排水路の改良も含めているが、河川改良延長の工事施工延長に占める割合を求める。 河川改良率 = 河川改良 / 工事施工延長						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い A
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B

進行年度(H25年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	要望箇所が多々あるため、優先順位を考えながら、事業を実施していく。

総合評価		
台風等による大雨に対応するためには必要な事業であるので、投資効果を考慮しながら優先順位を決め、早期に整備をしていく必要がある。	総合評価	A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B

平成26年度の方向性・取組目標	
方向性	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
取組目標	改良箇所を十分に精査し、投資効果を考慮しながら優先順位をつけて事業を進めていく。

事業の意図する成果となる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな